



暑熱による 肝機能減退にはウルソ

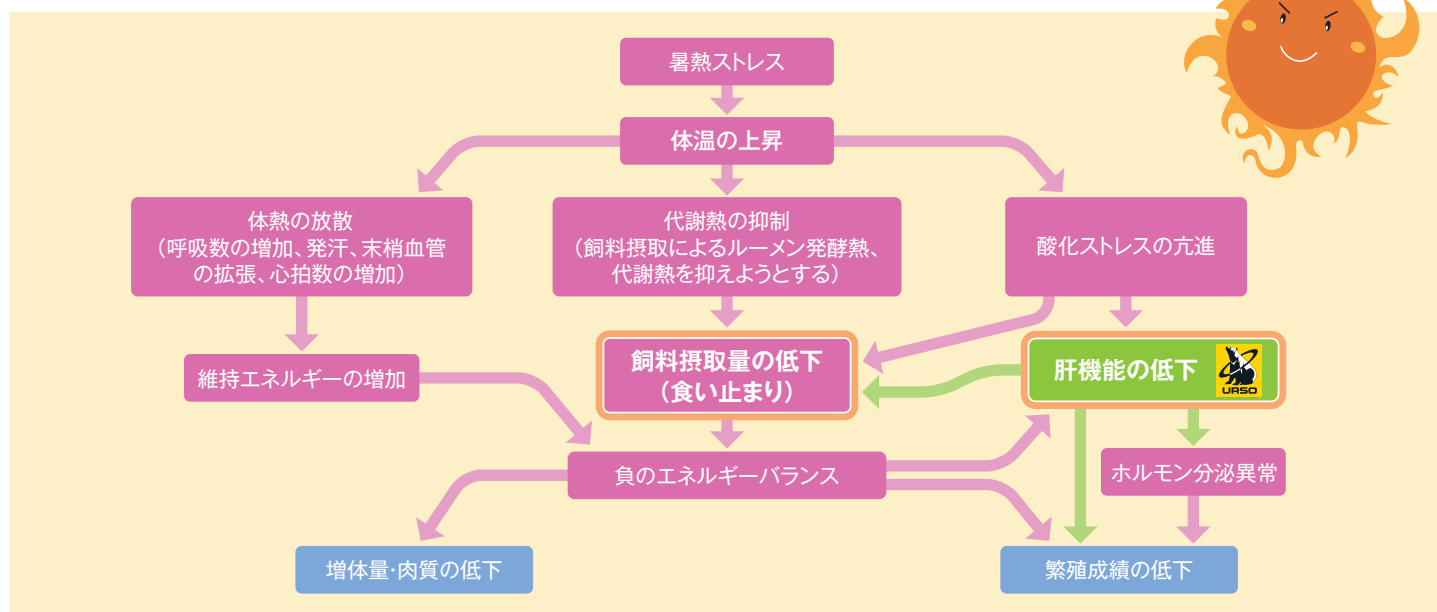


～ 今年の夏はウルソで乗り切ろう ～

暑熱注意

暑熱ストレスは、暑熱による体温上昇により、体内の代謝機能が低下し自律神経やホルモンバランスが乱れ、体内の多くの代謝を担っている肝臓にも悪影響を及ぼし、飼料摂取量の低下だけでなく牛の生産性や生理機能に悪影響を及ぼします。

暑熱ストレスが生産性に及ぼす影響



**ウルソデオキシコール酸は暑熱ストレスによって
肝機能が減退した牛の手助けをします。**

暑熱はどれくらいから？

暑熱ストレスを判断する指標：温湿度指数（THI）

- 気温と湿度の相関指数で総合的に判断
- 和牛の目安：**THI 70以上は要注意!**



		気温(℃)											
湿度 相対湿度(%)	5	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	10	63.5	64.4	65.2	66.1	66.9	67.8	68.6	69.5	70.3	71.2	72.0	72.9
	15	63.9	64.8	65.7	66.6	67.5	68.4	69.3	70.2	71.1	72.0	72.9	73.8
	20	64.2	65.1	66.1	67.0	68.0	68.9	69.9	70.8	71.8	72.7	73.7	74.6
	25	64.5	65.5	66.5	67.5	68.5	69.5	70.5	71.5	72.5	73.5	74.5	75.5
	30	64.9	65.9	67.0	68.0	69.1	70.1	71.2	72.2	73.3	74.3	75.4	76.4
	35	65.2	66.3	67.4	68.5	69.6	70.7	71.8	72.9	74.0	75.1	76.2	77.3
	40	65.5	66.7	67.8	69.0	70.1	71.3	72.4	73.6	74.7	75.9	77.0	78.2
	45	65.8	67.0	68.2	69.4	70.6	71.8	73.0	74.2	75.4	76.6	77.8	79.0
	50	66.2	67.4	68.7	69.9	71.2	72.4	73.7	74.9	76.2	77.4	78.7	79.9
	55	66.5	67.8	69.1	70.4	71.7	73.0	74.3	75.6	76.9	78.2	79.5	80.8
	60	66.8	68.2	69.5	70.9	72.2	73.6	74.9	76.3	77.6	79.0	80.3	81.7

引用：畜産酪農研究センター

投与量は？ 裏面へ！

ウルソデオキシコール酸は肝機能が減退した牛の手助けをします。

「動物用医薬品」胆汁酸製剤

ウルソ[®]-5%

胆汁酸製剤：ウルソデオキシコール酸 5%



2kg (50g×40袋)

効能・効果 牛：ケトージス、肝機能減退症

用法・用量 牛：1頭当たりウルソデオキシコール酸として2～3gを1日1回経口投与する。なお、症状に応じて適宜増減する。

ウルソデオキシコール酸の薬理作用

1 利胆作用
1)

2 肝血流量増加作用
2)3)

3 肝機能改善作用
4)5)6)

肝機能の改善

4 消化吸収改善作用
7)8)9)10)11)12)

栄養素の消化吸収促進

5 解毒作用
13)14)

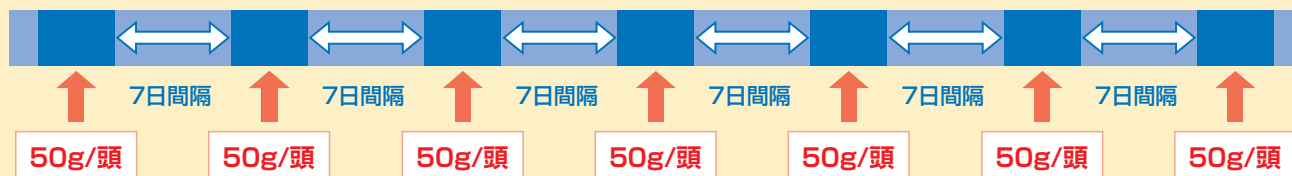
エンドトキシン分解

夏場対策のひとつとして、肝機能が減退した牛にウルソデオキシコール酸の投与をご検討ください。

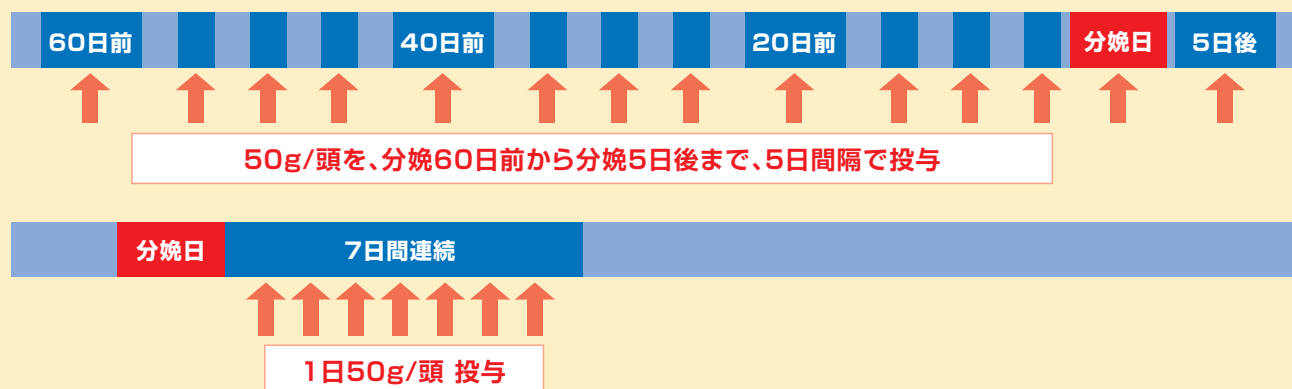
投与プログラム例

ウルソ[®]-5% の場合

1. 暑熱ストレス時の、肝機能減退の牛の場合



2. 暑熱ストレス時の、肝機能減退症を示す搾乳牛の場合



引用文献

- 1) 戸田安士 他, 基礎と臨床, 10, 103, (1976)
- 2) 玉沢佳巳, 基礎と臨床, 9, 2371, (1975)
- 3) 安藤貴朗, 臨床獣医, 38(9), 30-35, (2020)
- 4) A Crosignani et al., *Hepatology*, 14(6), 1000-1007, (1991)
- 5) 田辺三菱製薬ウルソ錠添付文書より
- 6) Y. -S Chen et al., *Cells*, 8(3), 253, (2019)
- 7) 土屋周二 他, 厚生省特定疾患消化吸収障害調査研究班昭和57年度業績集, 99-104, (1982)
- 8) 村上由紀 他, 日獣会誌, 42, 245-248, (1989)
- 9) 大西信近, ビタミン, 12, 145-147, (1957)
- 10) 大西信近, ビタミン, 12, 147-149, (1957)
- 11) 原泰寛 他, 福岡医誌, 65 (12), 933-940, (1974)
- 12) 伊藤信也 他, 基礎と臨床, 10, 24, (1976)
- 13) 久保木憲人 他, 薬学研究, 31, 6, 29, (1959)
- 14) M. Funaoka et al., *J. Gastroenterol. Hepatol*, 14, 652-658, (1999)